

平成22年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

高度な製材技術と流通合理化により地域材の安定供給を実現

○氏名又は名称 協和木材 株式会社（代表 佐川 広興）

○所在地 福島県東白川郡塙町

○出品財産物（木材）

○受賞理由

・地域の概要

塙町は、福島県南東部、茨城県との県境を跨いだ「奥久慈八溝地域」に位置し、針葉樹素材の主要産地の一つとなっており、良質材の産地としても広く知られている。塙町の民有林人工林率は、57%と県平均の36%を大きく上回る。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

協和木材(株)は、昭和28年に素材生産業として創業。昭和38年から製材業に着手し、昭和48年に株式会社組織となり現在に至る。

協和木材(株)は、福島県下最大の国産材専門製材工場を有し、平成21年度の原木消費量は約137千m³と国内最大級であり、首都圏を中心として県内外へ多くの国産材を供給している。

・受賞者の特色

(1) 地域材の安定供給

奥久慈八溝地域の豊富な森林資源を背景に、協和木材(株)により組織化された素材生産業者が、同社山林部により確保された立木の伐採、搬出を請け負い、材価、受注状況等に応じて原木を工場へ供給することで、流通運搬経費等のコストダウンを図り、地域材を安定的に供給している。

(2) 高度な製材技術

製材品は、熟練した従業員により加工され、厳密な格付け、品質管理の後に出荷されており、全国各地から高い評価を受けている。人工乾燥技術に関しては、早くから乾燥前の材の重量選別工程を取り入れるとともに、材種による乾燥施設の使い分けや組み合わせによる効率化を図ることで、低コスト、かつ品質に優れた乾燥材生産を行っている。

(3) 需要者ニーズへの対応

人工乾燥材の大量供給を求めるハウスメーカーや、材色に優れた天然乾燥材を求める中小工務店などに対して、ニーズに対応した生産、供給体制が確保されている。

また、製材品には含水率、機械等級（ヤング率）及び製造番号が印字され、需要者への積極的な製品情報の提供が図られており、いわば工業材料製品と同等の製品管理が実施されている。

・普及性と今後の発展方向

協和木材(株)を核とした奥久慈八溝地域の国産材生産システムの取組は、大量需要対応へ向けた地域材の流通合理化と安定供給体制の整備を進めるものであり、今後の林業、木材産業経営のモデルとなるものである。

今後は、大規模国産材製材工場として、さらに大口ロット需要への対応を図り、それにより得られた利潤を森林所有者に還元することで、川上から川下まで地域産業の振興に貢献していく意向である。